

(案)

都市計画マスタープラン

区別構想【秋葉区】の改定に向けた検討

秋葉区建設課

1

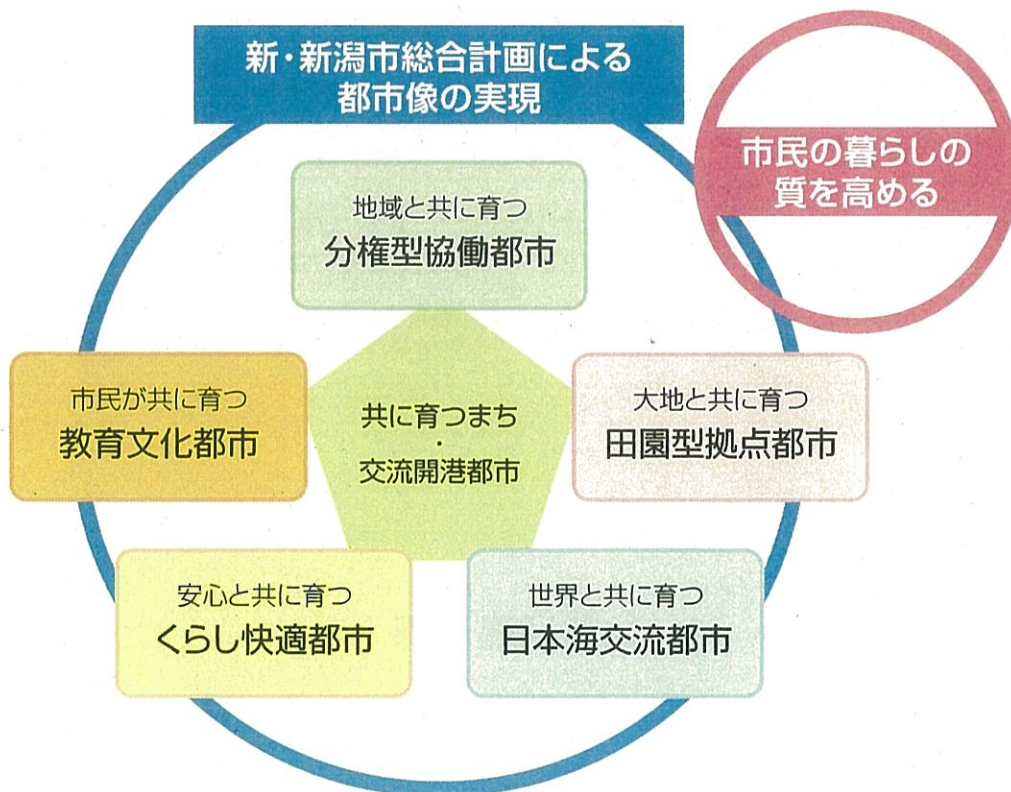
都市計画基本方針の目的と位置づけ

都市計画基本方針の目的

都市計画基本方針は、市の最上位計画である新・新潟市総合計画が掲げる「分権型協働都市」「田園型拠点都市」「日本海交流都市」「くらし快適都市」「教育文化都市」の5つの都市像の実現を目的とします。さらに、都市計画と市民の暮らしのつながりが見えるような計画づくりを行い、市民が「暮らしやすさ」を実感できる都市づくりを実践する必要があることから、「市民の暮らしの質を高める」ことも目的とします。

都市計画基本方針では、社会の大きな変化を踏まえて、今後の都市づくりの目指す姿・方向性を明らかにします。また、目的の達成に向けて、必要な連携を図りながら都市づくりに取り組むために、都市空間整備に関する分野を複合的に扱うとともに、他の分野の取り組みも考慮しながら、取り組み方針を示します。このことにより、今後の都市づくりの実践に向けた総合的な指針としての役割を果たします。

都市計画基本方針の目的

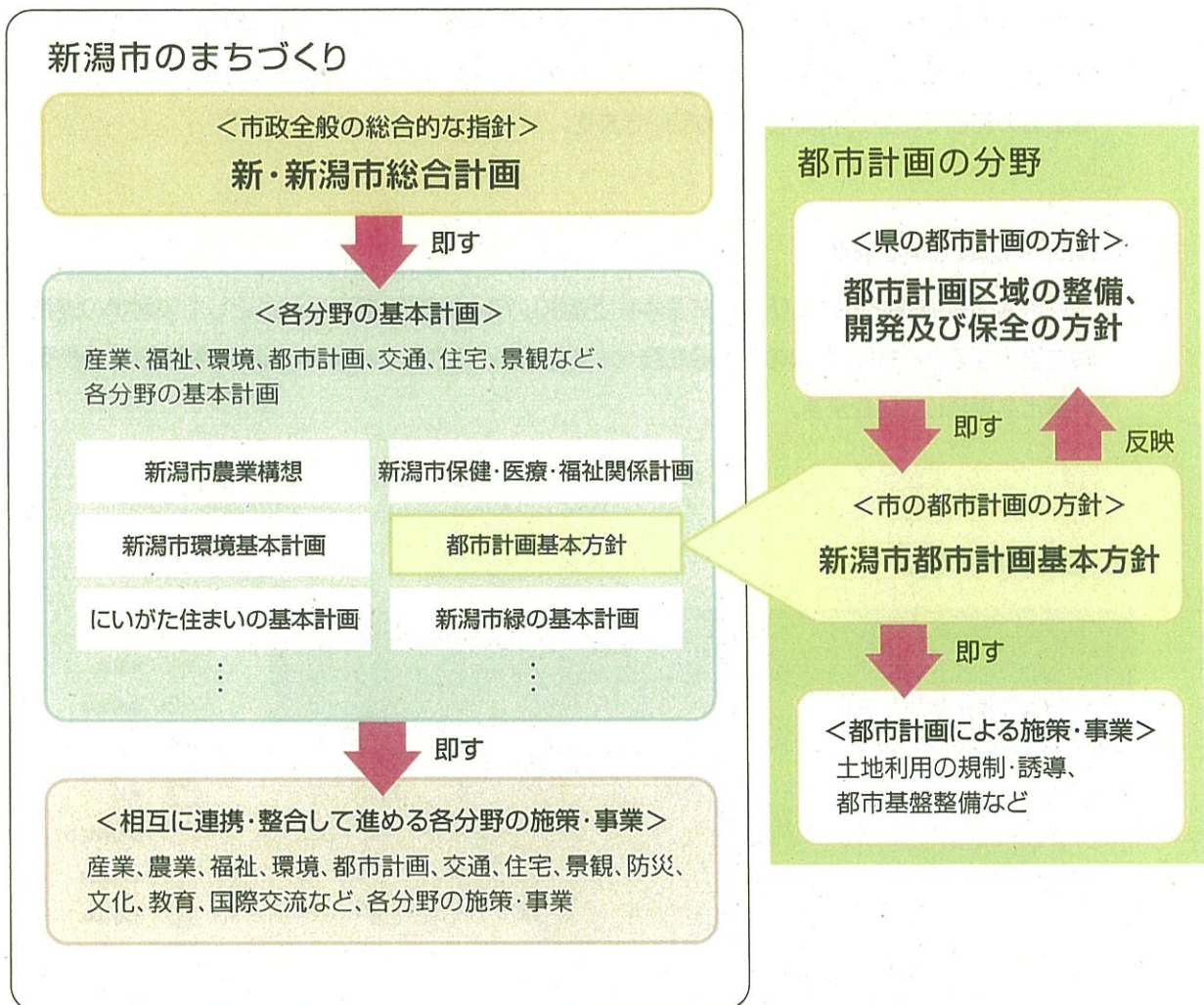


都市計画基本方針の位置づけ

都市計画基本方針は、都市計画法第18条の2に基づく市の都市計画の基本的な方針であり、市政全般の総合的な指針である新・新潟市総合計画と、新潟県が定める県の都市計画の方針に即して定めます。

都市計画基本方針は、新・新潟市総合計画で位置づけられた様々な分野の施策のうち、都市計画によるまちづくり分野を受け持つ基本方針です。また、都市計画の分野における上位計画である県の都市計画の方針では、県内各都市が目指す都市像を「コンパクトな都市」としており、本計画においても、この方向を基本としています。

都市計画基本方針は、新潟市の都市づくりに関わる各種の関連計画と連携して定めます。そのことによって、都市計画をはじめ、地域のまちづくりを共通の方向に進める指針となり、この基本方針に基づき、都市計画の決定や都市計画に関する事業など具体のまちづくりを進めます。



都市全体の構造

都市全体の構造を、以下の3つの要素から考えます。

(1) 市街地と田園の構造(面の構造)

市街地は、現在の市街化区域・用途地域を基本とし、市域をひとつの都市計画区域として市街化区域・市街化調整区域を定め、無秩序な開発の防止と田園環境の保全に努めることにより、市街地の形態を維持していきます。また、広大な田園地域、山地・丘陵、河川、湖沼、海岸などの自然環境の保全を図ることにより、田園・自然に包まれた市街地として維持・再生し、良好な都市環境づくりを進めていきます。

(2) 拠点の構造(点の構造)

新潟市の都市活動の拠点として古町・白山、万代、新潟駅周辺を包含した区域を「都心」として位置づけ、都心を持つ中央区と東区の一部の区域を、都心機能を補完する「都心周辺部」と位置づけます。また、市民生活の要となる場所として、各区に「地域拠点」及び「生活拠点」を位置づけ、身近な生活の範囲での生活利便性を高めていきます。

(3) 連携の構造(線の構造)

各地域の拠点間を道路及び公共交通体系で連携していきます。都心を中心とした放射状の連携軸を強化するとともに、環状の連携軸も強化していくことにより、地域と地域の連携を高め、連携型の都市を実現していきます。

図 都市構造概念図

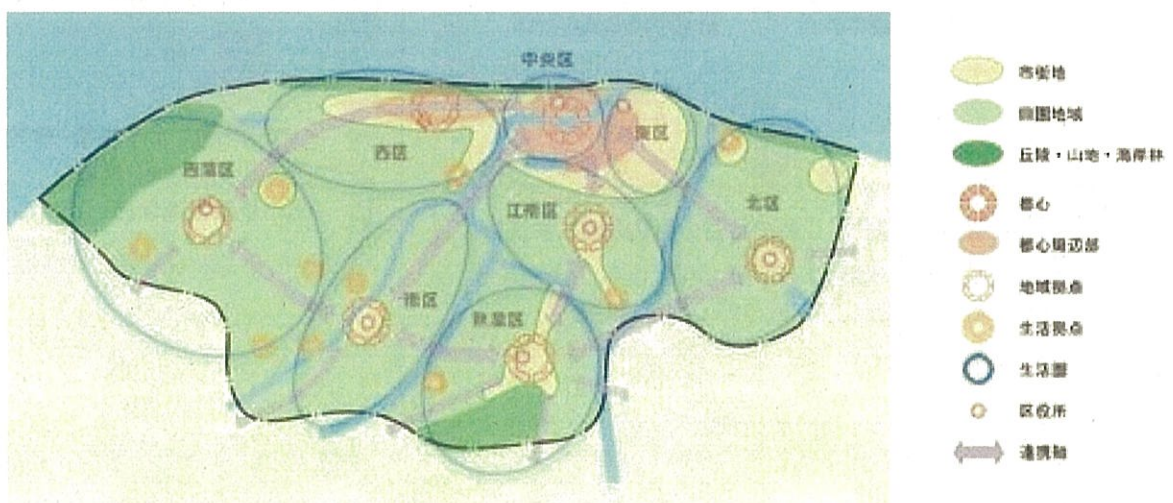
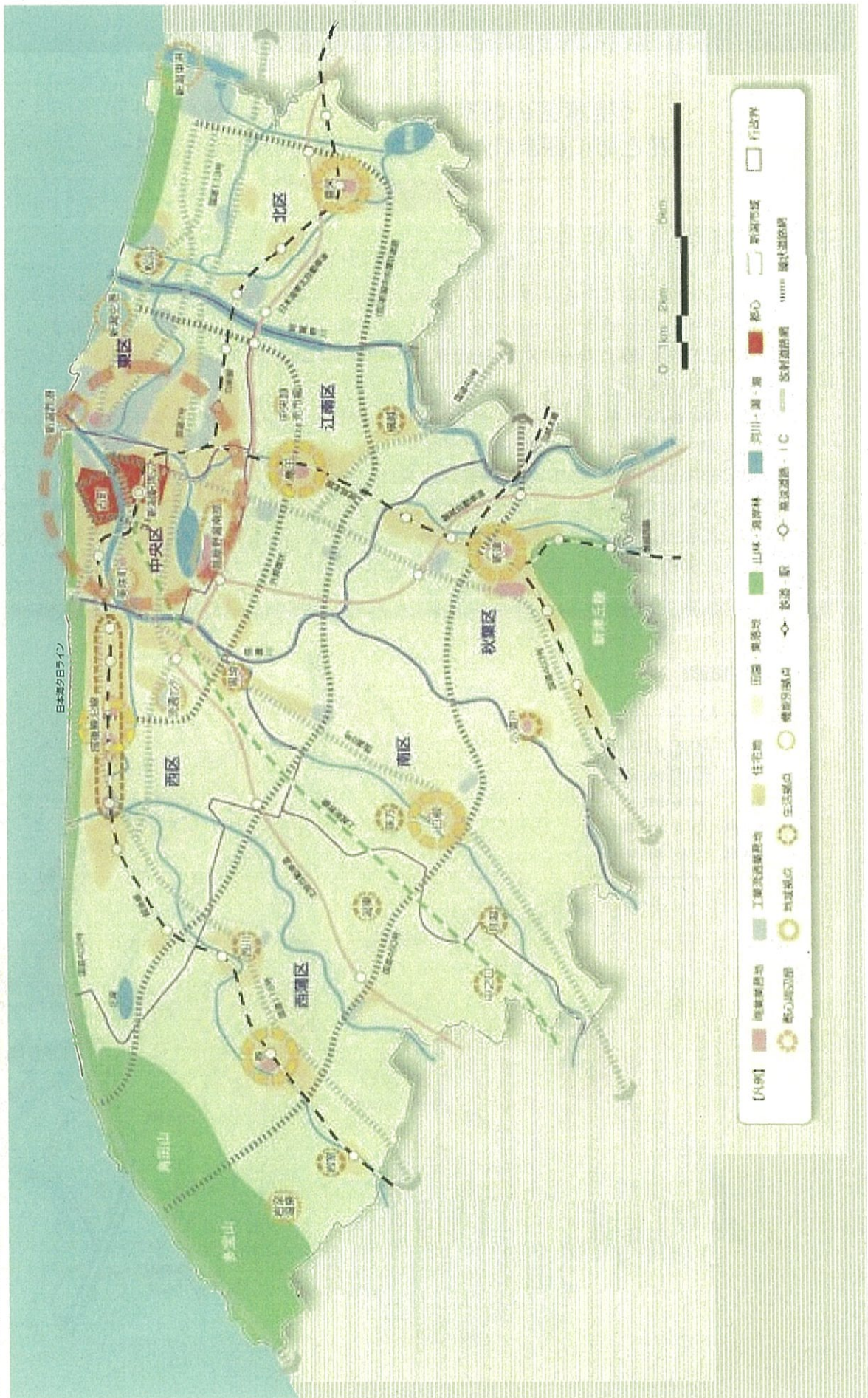


図 政令市新潟の都市づくりの方針 都市構造総括図



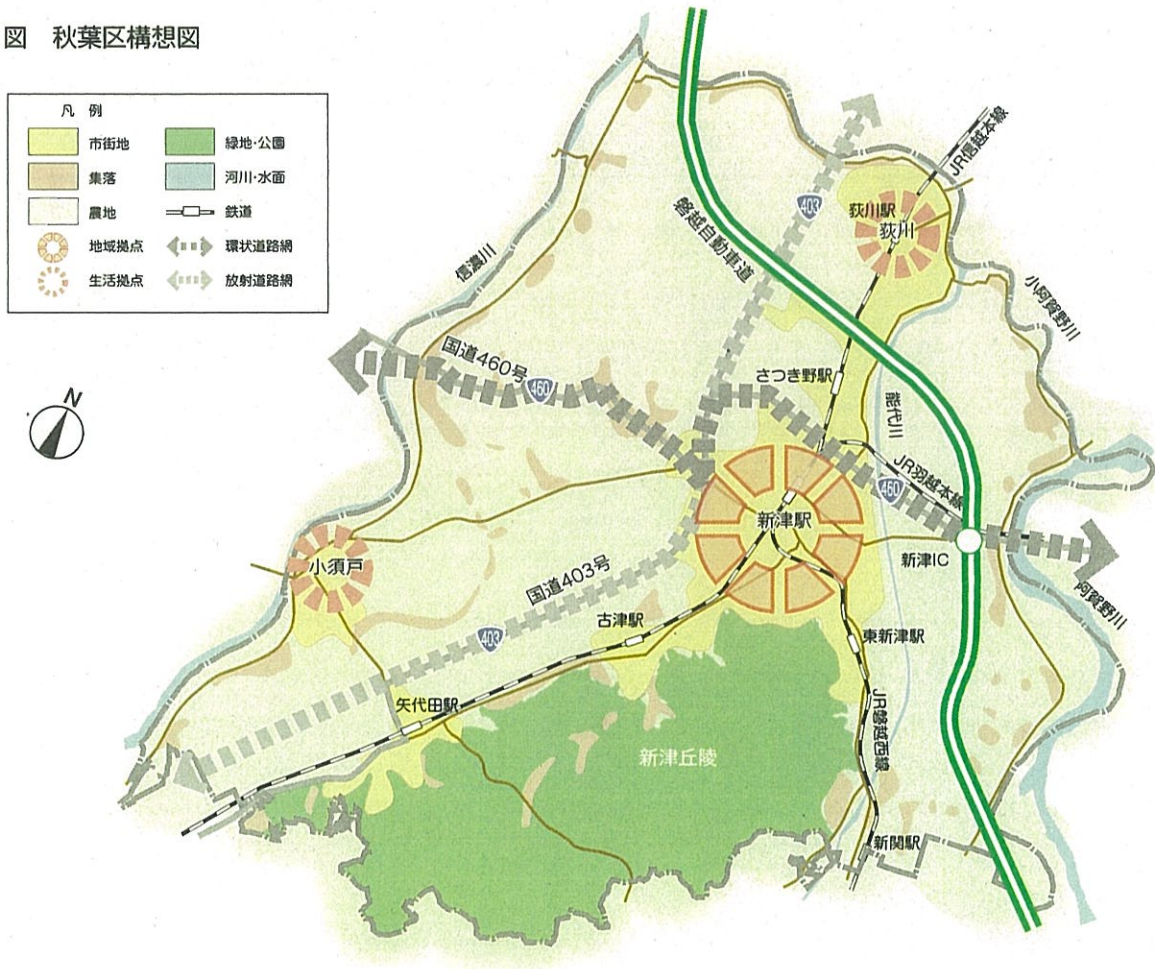
秋葉区

《秋葉区の将来像》 -区ビジョン基本方針より-
 ~花と緑に囲まれた、快適でにぎわいのあるまち~

《 区づくりの方向性 》

- ①市街地の活性化を図るため、新津駅周辺では地域の拠点性を高め、個性あるまちづくりを進めます。また、小須戸地区・荻川駅周辺の地域を生活拠点として位置づけ、身近な生活の利便性を高めます。
- ②郊外の集落では、優良田園住宅制度等の活用を推進し、田園風景と調和した景観や集落のコミュニティの維持・活性化を図ります。
- ③磐越自動車道、国道403号及び460号を区域の骨格道路とし、これらを軸に主要な県道・市道を活かした区域内の道路ネットワークの強化を図ります。
- ④鉄道駅を中心に、利用しやすい公共交通体系を構築し、便利で快適なまちを目指します。
- ⑤区のシンボルとなる水豊かな信濃川・阿賀野川、緑豊かな新津丘陵、これらに囲まれた田園地域を区の風景の骨格となる貴重な資産ととらえ、この豊かな生態系をはぐくむ恵まれた自然の保全と活用に努め、美しい景観と調和のとれたまちづくりを目指します。

図 秋葉区構想図



都市計画マスタープラン策定の進め方

- ・令和2年度より新潟市都市計画マスタープランの改定を進めています。
改定作業は都市計画課が庶務を務め、学識経験者で構成される「新潟市都市計画マスタープラン策定検討委員会」にて検討を行っています。

委員会	内容
第1回	①新潟市の現状と課題 ②見直しの方向性
第2回	①全体構想(都市・地域づくりの方針)の検討 ②実現に向けた取り組みの検討
第3回	①全体構想(素案)の確認 ②実現に向けた取り組みの確認
第4回	①区別構想(案)の確認 各区による区別構想の検討
第5回	①運用方策の見直し
第6回	①都市計画マスタープラン[素案] → パブリックコメント
第7回	①都市計画マスタープラン[原案] → 市議会議決

R2年度内
(予定)

5 秋葉区

① 区の概要

・地勢

新潟市の中で南東部に位置し、東西を阿賀野川、信濃川の二大河川に囲まれ、北には小阿賀野川、区の中央には能代川・新津川が流れるほか、南には秋葉丘陵が広がる自然豊かな地域です。

面積は 95.38 km²で、新潟市 8 区の中では西蒲区、北区、南区に次ぐ面積となり、全市域の約 13% を占めています。

・人口

令和 2 年度の区内の人口は 74,952 人、世帯数は 26,938 世帯となっており、人口は減少傾向ですが、世帯数は増加傾向にあります。

また、高齢化率も年々増加傾向にあります。

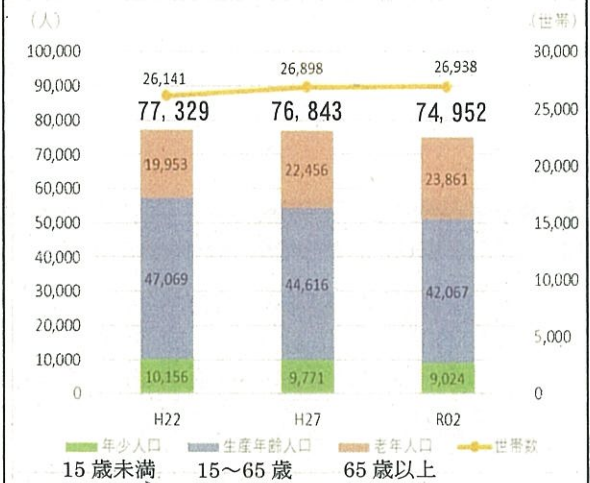
新津駅周辺を中心に荻川駅まで信越本線沿線や小須戸地区などに市街地が形成されており、鉄道と幹線道路網によって各地域が結ばれています。

・区の特徴

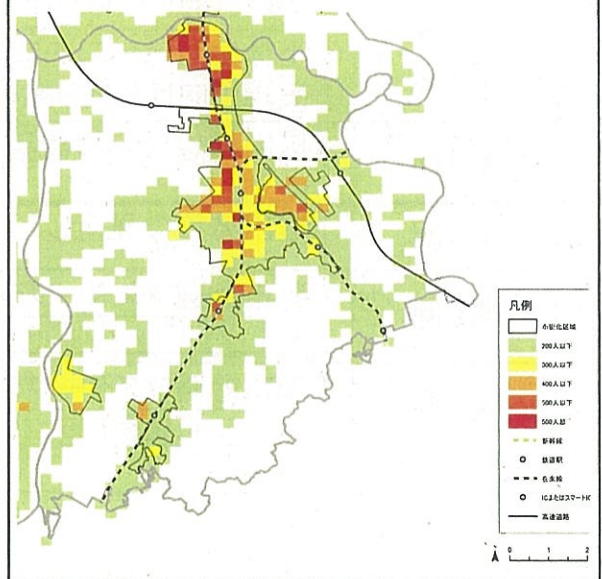
かつては石油のまち、鉄道のまちとして栄え、現在は国指定の石油関連史跡や SL ばんえつ物語号の運行により観光に活用をしています。また、花き花木、球根の生産地として全国に知られています。

近年は区内の教育機関である新潟薬科大学と連携し、まちなかの活性化に向けた活動や、産・官・学連携のバイオ技術の研究による里山資源の活用などを含め新しい地場産業の形成を目指しています。

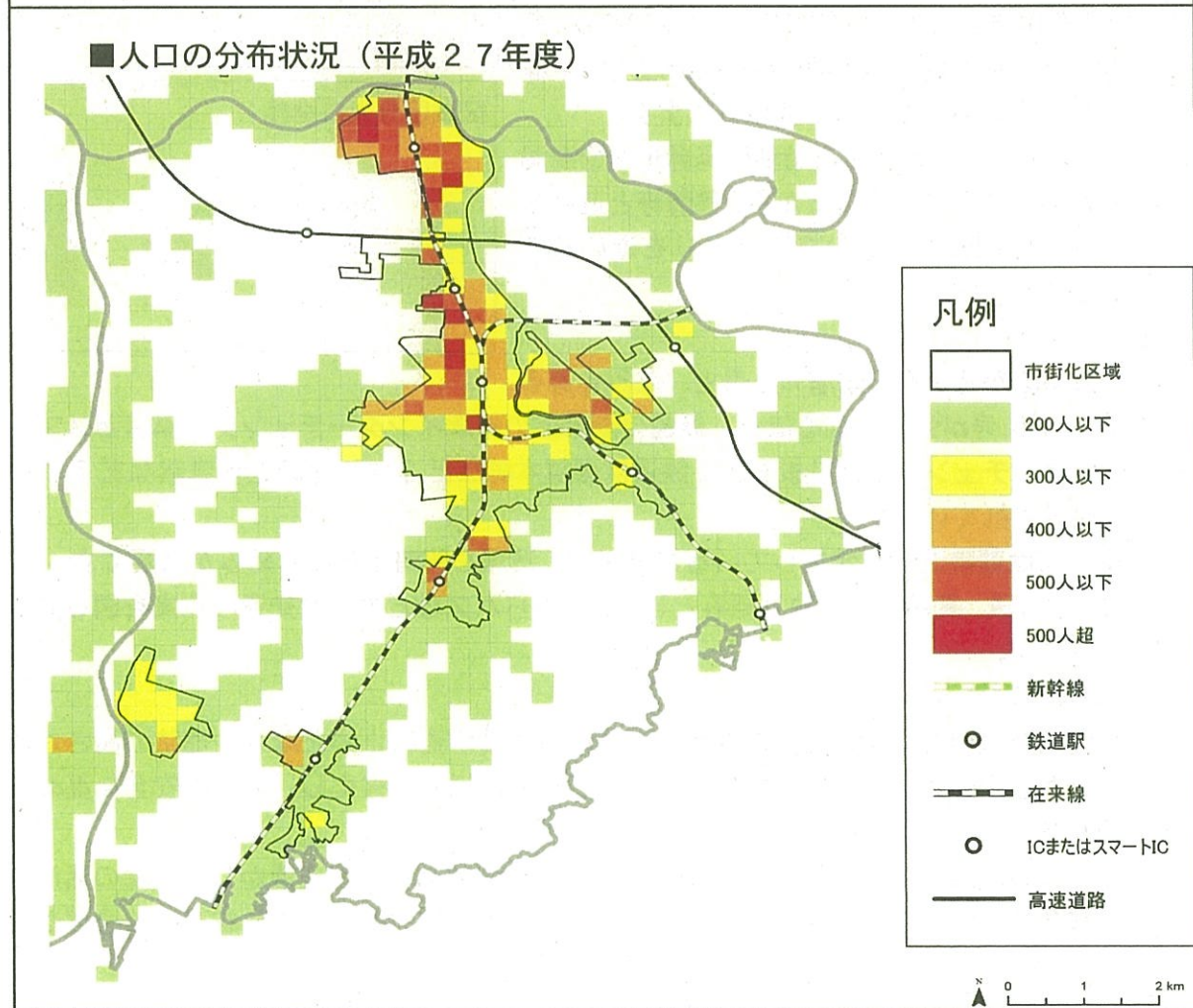
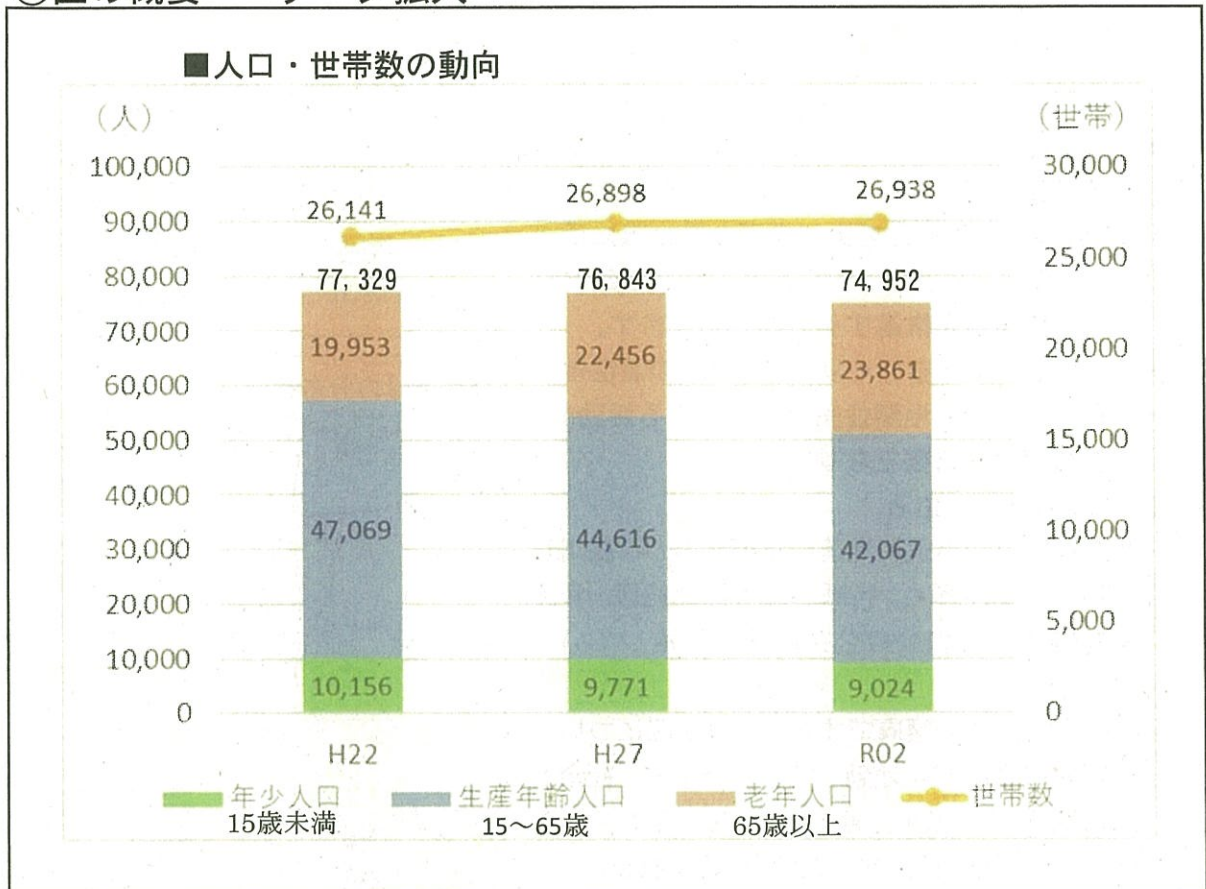
■人口・世帯数の動向



■人口の分布状況（平成 27 年度）



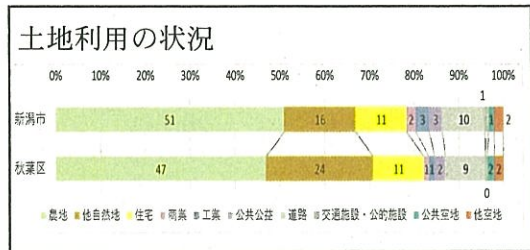
①区の概要 データ拡大



② 現状と課題

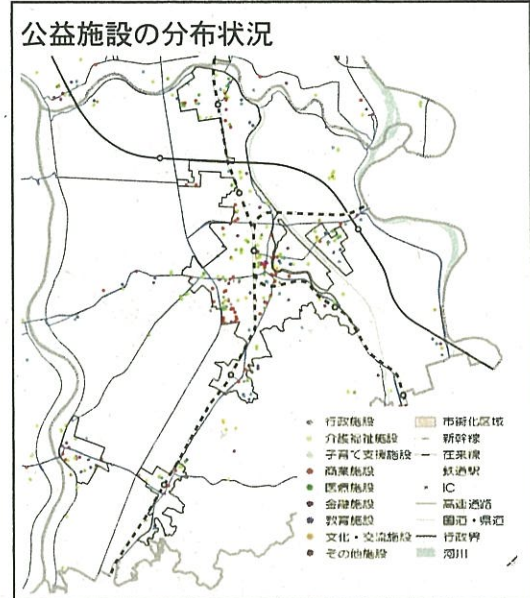
(1) 土地利用

- ・田園風景を作る農地と、緑豊かな秋葉丘陵や河川等の自然地で約 7 割の土地利用を占めており、区の特徴である里山や水辺を最大限に活かして、移住、定住してもらえるような自然と調和した暮らしを推進する必要があります。
- ・暮らしやすいまちづくりには、地域の活性化が不可欠であり、地域住民と協働による活動や、人材の育成が重要となります。



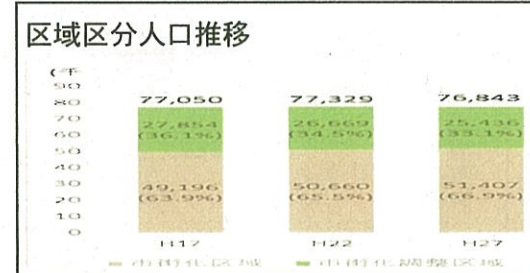
(2) 人口の変動と生活

- ・新津駅周辺や小須戸地区の市街地及び、荻川駅周辺で人口が多く、行政施設や医療施設・介護福祉施設などの公共公益施設が集積しています。
- ・区の人口は減少傾向ですが、人口動態については新潟市中心部へ通勤する世代が多く、社会動態の転入が転出を上回っている状況であることから、今後も住宅地需要が見込まれます。
- ・市街化区域には人口の約 67%が住んでおり、良好な市街地整備や生活圏の利便性向上など、暮らしやすい地域づくりが求められます。
- ・一方、古くからの中心市街地は高齢化率や空洞化が進んできていることから、民間等と連携して生活の利便性の高いまちづくりを進める必要があります。



(3) 交通

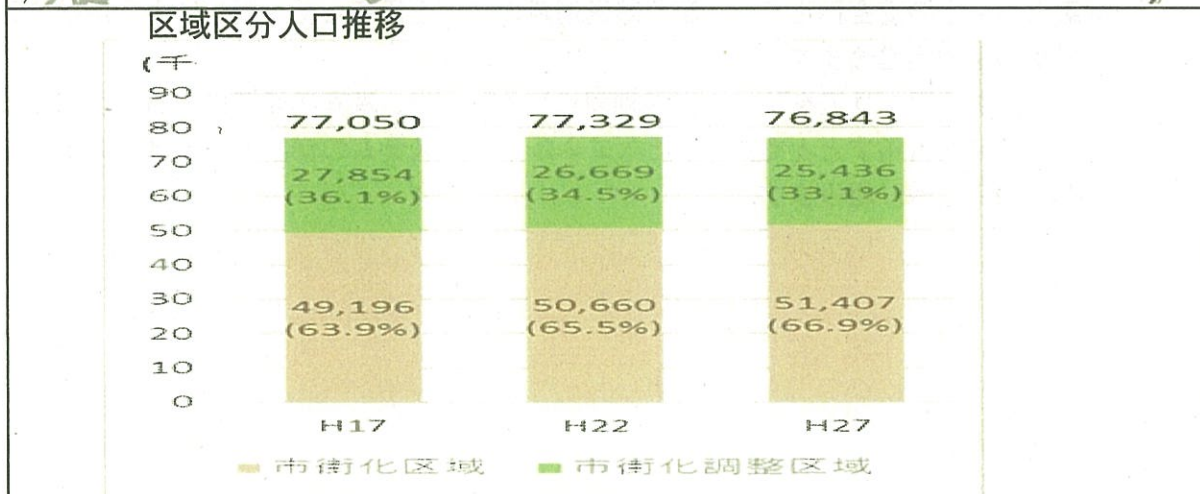
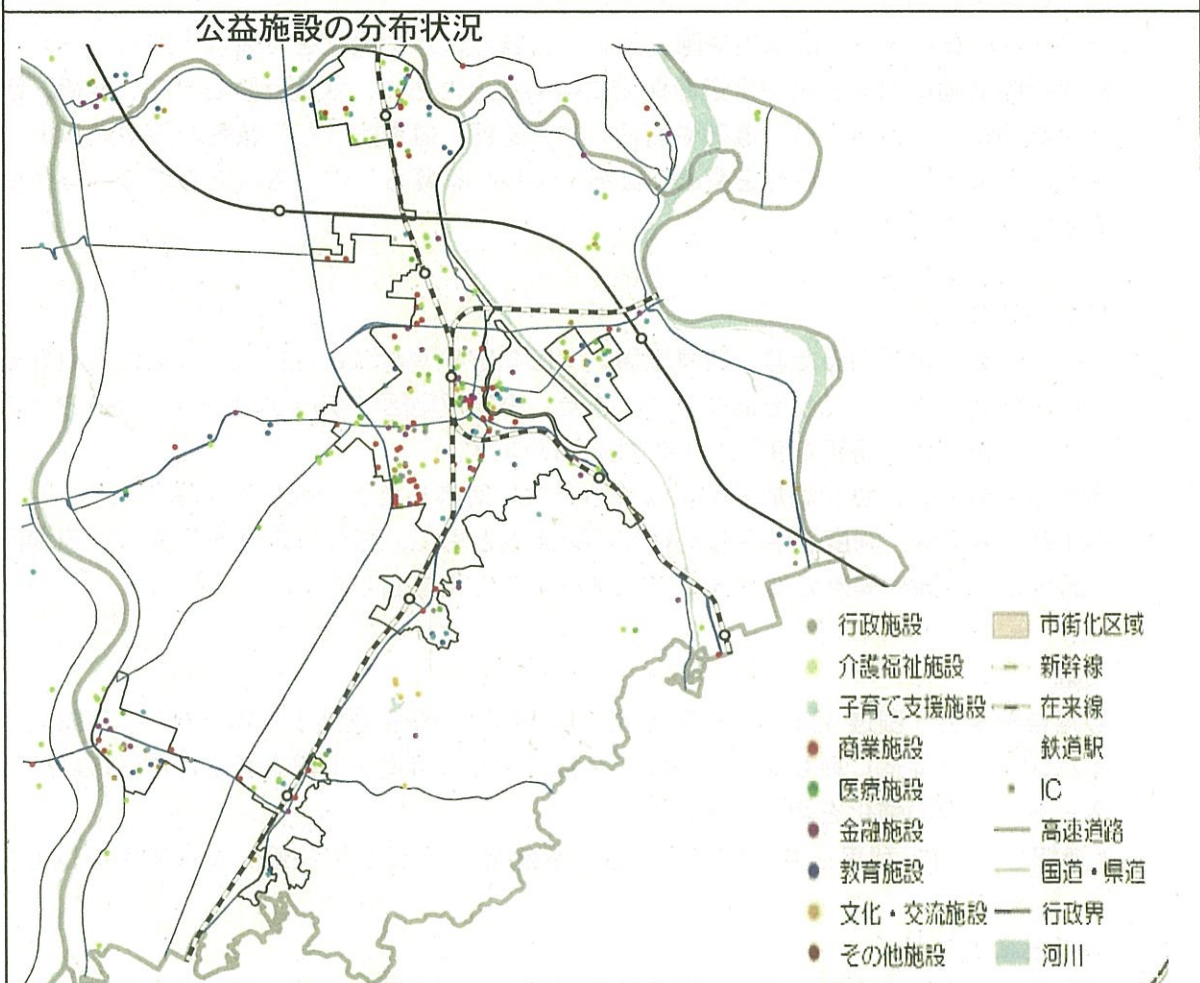
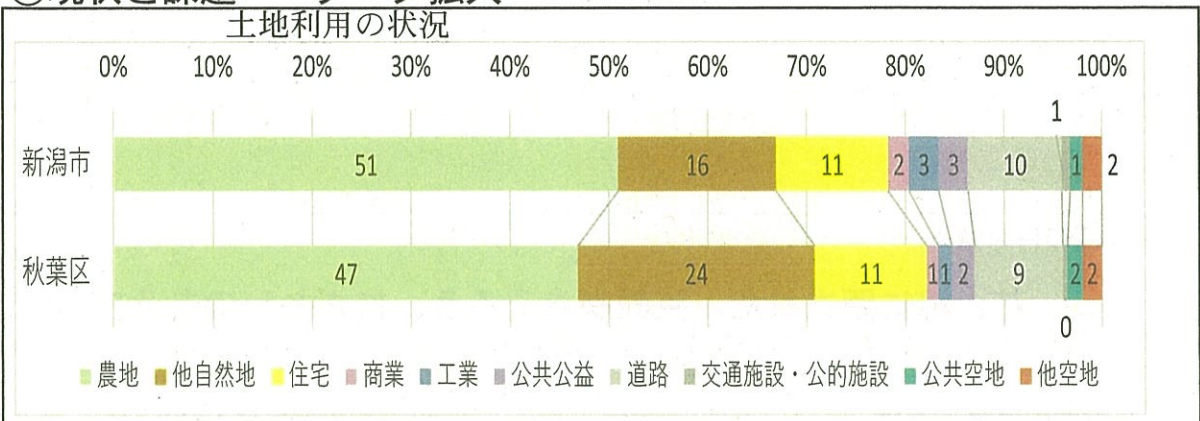
- ・道路網は南北を通る国道 403 号と、東西を通る国道 460 号が骨格となるほか、磐越自動車道の新津インターチェンジ、新津西スマートインターチェンジがあります。鉄道は信越本線など 3 つの路線と新津駅など 7 つの駅が設置されています。
- ・国道では朝晩渋滞が発生していることから、渋滞を解消する取り組みが必要です。また、今後、高齢化への取り組みとして、駅からバスなどの二次交通の充実を図る必要があります。



(4) 防災や環境への取り組み

- ・新潟福島豪雨では、信濃川の増水により小須戸橋が通行止めとなり、堤防の高さが低いことから水防活動が行われました。このことから堤防を強化し、治水の安全を高める必要があります。
- ・また、近年多発する地震への対策として、区の特徴である自然を活かした資源の活用や、環境負荷の少ないエネルギーを取り入れた、災害に強い拠点づくりを進める必要があります。

②現状と課題 データ拡大



③ 区づくりの方向性

<区の将来像>

花と緑に囲まれた、笑顔咲きそろう、にぎわいのあるまち

(1) 自然の保全と活用

- ・緑豊かな秋葉丘陵と、信濃川や阿賀野川など自然豊かな環境を貴重な資産ととらえ、市民協働の活動による里山や水辺の保全に努めるとともに、秋葉丘陵を文化、学術、観光の機能別拠点に位置づけ、遺跡や石油、文化遺産、植物園などの教養施設や遊歩道を活用し、里山としての拠点性を高め、自然を楽しめる暮らしができるまちづくりを目指します。

(2) 地域の活性化

- ・市街地の活性化を図るため、新津駅周辺では産官学や地域と連携し、地域の拠点性を高め、個性あるまちづくりを進めます。また、小須戸地区・荻川駅周辺の地域を生活拠点として位置づけ、身近な生活の利便性を高めます。
市街地周辺では、世帯増加や多様な暮らし方に対応した土地利用を推進します。
- ・郊外の集落では、制度を活用した住宅の建築とともに、移住・定住を促進し、田園風景と調和した景観や集落のコミュニティ維持・活性化を図ります。

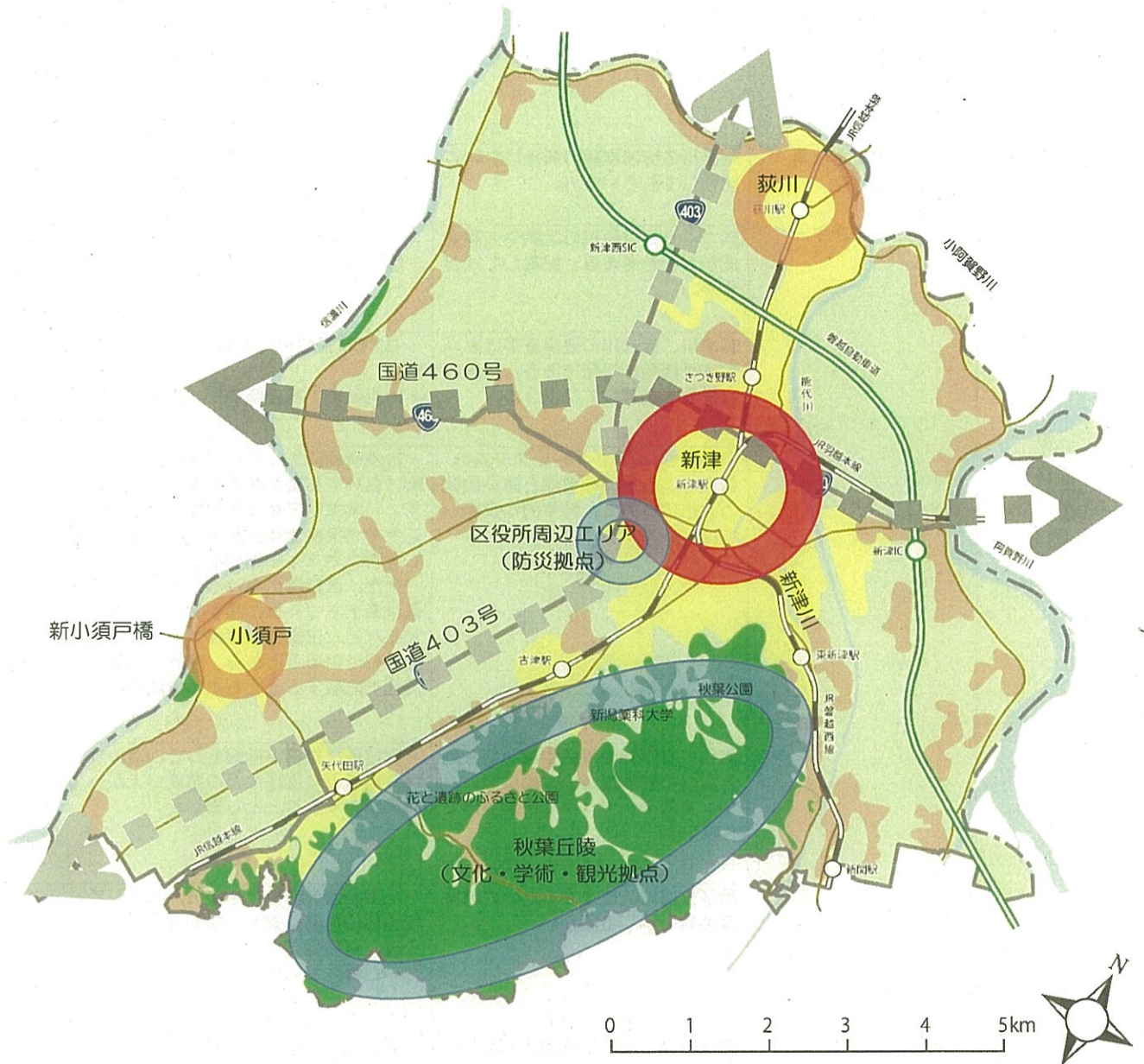
(3) 交通

- ・磐越自動車道、国道 403 号及び国道 460 号を区域の骨格道路とするため、4 車線化やバイパスの整備促進に取り組み、これらを軸に主要な県道・市道を活かした区域内の道路ネットワークの強化を図ります。
- ・鉄道駅を中心に、利用しやすい公共交通体系を構築し、便利で快適なまちを目指します。

(4) 防災とエネルギー

- ・信濃川の治水の安全性を高め、緊急輸送道路の確保を図るため、新しい小須戸橋の整備と堤防の強化を進めます。
- ・秋葉区役所周辺エリアを防災の機能別拠点に位置づけ、産官学連携による環境に優しいまちづくりを目指すとともに、新たなエネルギーシステムの構築による地域の発展と防災機能強化に取り組みます。

秋葉区構想図



凡例	
 市街地	 緑地・公園
 集落	 河川・水面
 農地	 鉄道
 地域拠点	 環状道路網
 生活拠点	 放射道路網
 機能別拠点	

第一部会などにおける主な意見と検討結果

	記載ページ	見出しと要点	意見等	検討結果、記載概要など
1	①区の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・地勢 ・人口 ・区の特徴 	意見なし	<ul style="list-style-type: none"> ・地勢、人口、区の特徴に分け、見出しを記載しました。 ・データ図表は印刷の段階で明瞭になります。(別紙拡大版参照)
2	②現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・土地利用 ・人口の変動と生活 ・交通 ・防災や環境への取り組み 	意見なし	<ul style="list-style-type: none"> ・③区づくりの方向性や④構想図と関連する部分は記載しました。
3	③区づくりの方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・自然の保全と活用 ・地域の活性化 ・交通 ・防災とエネルギー 	信濃川の河川空間の利用について記載してもらいたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・(1)で信濃川など自然豊かな環境を貴重な資産ととらえ、水辺の保全に努めることを記載しました。
4			区づくりには住民の活動や人材育成が大切と考える。記載してはどうか。	<ul style="list-style-type: none"> ・(2)に新津駅周辺では「地域」とも連携し、拠点性を高め、個性あるまちづくりを進めることを記載しました。
5			新津川、能代川の遊歩道等において市民活動が活発である。河川名と併せて記載してはどうか。	<ul style="list-style-type: none"> ・(1)で市民協働による里山や水辺の保全について記載しました。 ・河川名は①区の概要で、新津川、能代川も記載しました。
6			(4)新たなエネルギーシステムの構築による地域の発展と防災機能の強化について、具体的に説明してほしい。	<ul style="list-style-type: none"> ・区役所周辺エリアは、地域振興局、消防署、市役所など災害時においても機能維持が求められる公共施設が集積しています。本エリアを多角的なエネルギーを利用できる環境とすることで防災機能強化が図られるほか、供給面からも環境に配慮した新エネルギー等の検討が可能な状況が見込まれます。 また、区役所における太陽光発電設備の導入や、持続可能な低炭素まちづくりに関する協定を新潟市と越後天然ガスで締結するなど、田園型環境都市の実現に向けた取り組みを官民協働で進めていることから、今後の発展性を考慮し、区づくりの方向性に記載するとともに、機能別拠点に位置づけました。
7			能代川右岸側の東部地域から五泉方面への幹線道路の整備について、マスタープランで位置づけできないか	<ul style="list-style-type: none"> ・現段階では都市計画としての道路計画は無く、道路の位置づけや地域との協議などの熟度が上がっていないため、今後の検討課題とすることとしました。
8			秋葉公園を活性化するための再整備計画を示してほしい	<ul style="list-style-type: none"> ・秋葉公園の活性化を図るために、これまでに地域の団体と環境整備の協働作業や再整備基本方針の検討を進めてきました。今後、再整備の計画の策定を進める中で、情報発信をしていきたいと考えています。
9			③区づくりの方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・地域拠点 ・生活拠点 ・機能別拠点
10	④秋葉区構想図		拠点の定義がわからない	<ul style="list-style-type: none"> 全区統一として次の3種類に分類するほか、中央区に「都心」があります。 ・地域拠点…都市周辺部を除く区域で、区役所及び旧市町の中心区域 ・生活拠点…旧町村役場及び地区事務所周辺など地域レベルでの日常生活の中心区域 ・機能別拠点…国際交流・文化・流通・商業業務・学術・医療・行政・観光・産業・防災と定義
11		<ul style="list-style-type: none"> ・自然の保全と活用 ・防災とエネルギー 	<ul style="list-style-type: none"> ・秋葉丘陵と区役所周辺エリアの2か所を機能別拠点としているが、どのような機能別拠点なのかわかるように記載してはどうか 	<ul style="list-style-type: none"> ・③(1)で秋葉丘陵を文化・学術・観光の機能拠点と位置づけるとともに、区別構想図にもかっこ書きで追記しました。 ・③(4)で秋葉区役所周辺エリアを防災の機能別拠点と位置づけるとともに、区別構想図にもかっこ書きで追記しました。